

平成 24 年度都市計画実習 まじわり班 最終発表レジュメ	H24. 6. 22	担当教員：谷口 守
毎日がフェスティバル ～センター地区活性化への道しるべ～		TA：肥後洋平
班長:伊藤彰良 副班長:向縄卓哉 印刷:黄ジュン儀 DB: 宮尾采佳		

つくば市事前調査はつくば市中央図書館前，つくばセンター広場，クレオスクエア前広場が対象だが，まじわり班が活性化を目指すセンター地区はセンター広場中心とする。

1. 背景

つくば市は独自のペDESTリアンデッキを保有しており，センター地区では重要な交通結節点となっている。しかし，ペDESTリアンデッキの中心であるセンター地区は日常では賑わいが感じられる状態ではなく，現状はただの通り道として使われてしまっている。つくば市の調査で最も交通量がかった，センター広場とキュートなどの商業施設を結ぶアーチでは，平日で約 10,877 人，休日で 6,305 人が行き来していることが分かっている。それらの来街者は主に買い物をつまみセンター地区の人通りが少ないわけではなく，賑わうポテンシャルを十分に持っているということである。まじわり班はこのポテンシャルに注目し，日常的に訪れる人たちを生かして，賑わい・活気のあるセンター地区の創出を目指していく。

2. 問題提起

賑わいのもたらし方としてイベントに着目したところ，日常と非日常（イベント開催時）では，非日常に賑わいがあるという印象を受けた。そこでまじわり班はイベントでの賑わいを「人がいる＝集まる×留まる」とおき，これらを満たす要素について五感という観点から考えていく。

2-1. 日常の問題点

日常のセンター地区が賑わっていない原因は，以下の 2 つの原因があると考えられる。

- ① 視認性…つくば市のペDESTリアンは階層構造になっており，センター地区では 2 階部分にあたる。この階層構造によって人々はペDESTリアンへ上りにくくなってしまっている。同時にこれはペDESTリアンと広場そして 1 階部分で視認性の問題を発生させており，賑わいをもたらずにあたって障害となる。
- ② 回遊性…センター地区にある既存施設には連続性がなく，ペDESTリアンで繋がっているにもかかわらず回遊性が乏しい。充実した回遊性は活気を生み出すと考えられ，センター地区にも回遊性の創出をしたい。

この 2 要素に関しては，つくば市も問題と考えていることがつくば市公共空間活用検討委員会資料から分かる。

人が集まる要素として五感の「聴覚」，「視覚」，「嗅覚」に対応させた「音」，「装飾」，「匂い」が挙げられる。また人が留まる要素として五感の「味覚」，「触覚」に対応させた「お店（例：飲食店）」，「パフォーマンス（例：体験型）」が挙げられる。これら要素を満たすことで「人だかり」が生まれ，また人が集まる要素となる。その中でも「音」は視認性を，「お店」は回遊性の問題解消のきっかけになり得ると考えた。音はイベント自体が可視・不可視に関わらず人々にイベントの存在を知らせることが可能な媒体であり，視認性がない場合も人を呼び集めることが可能である。店が断続的であるセンター地区の既存施設に連続性を生み，回遊の楽しさを発生させると仮定し，これら 2 要素の掛け算をすることで賑わいのある空間を生み出し，これらを生かした提案をする。

2-2. 非日常の問題点

非日常（イベント開催時）のつくばセンター地区は，以下の 6 つに大別できる。

- ① 基本…主催者が必要，屋外イベントへの天候の影響，会場準備，広報
 - ② 出店者側…人手不足，出店準備，出店料，駐車料
 - ③ 客側…滞在時間の短さ，確かな集客力
 - ④ 通行…客溜まりによる通行障害，自転車がスピードを落とさずに進入してしまうこと
 - ⑤ 制度…道路上の出店，出店手続き，最低出店可能日数の確保
 - ⑥ 構造…視認性がない
- これらの問題を解消する提案をする。

3. つくば市の取り組み

賑わいがないという問題意識はつくば市も同様に持っており，センター地区来訪者へのアンケートで要望が多かった。こういった問題に対して，つくば市は多種多様な実証実験に場を提供している。実証実験は以下の表の通りである。

表 1. つくば市の実証実験結果

	カフェテラスカ メリア	ファーマーズ ヴィレッジ	移動マルシェ
実施 期間	H23 11/19～	H23_11/27 H23_12/25 H24_2/26	H23_12/23(金)～ H24_1/9(月)
内容	オープンカフェ	テント型	移動ワゴン型

この実証実験では，いくつかの制度の変化を生み出した。まずペDESTリアン上での出店が可能になったこと，パフォーマーを登録制度したこと等がある。そして大きな変化としてまじわり班が注目した点は店がイベントに参加しやすいように，申請方法が簡易化されたことだ。改正前，出店者は警察署と市役所に出店手続きを行う必要があった。しかし改正後は，出店者はつくば活性化協議会に申請をするだけで済み，警察署・市役所への手続きをする必要がなくなった。このことから 2 章 2 節で触れた出店手続きの問題が解消されたと言える。

4. 調査

4-1. 調査の流れ

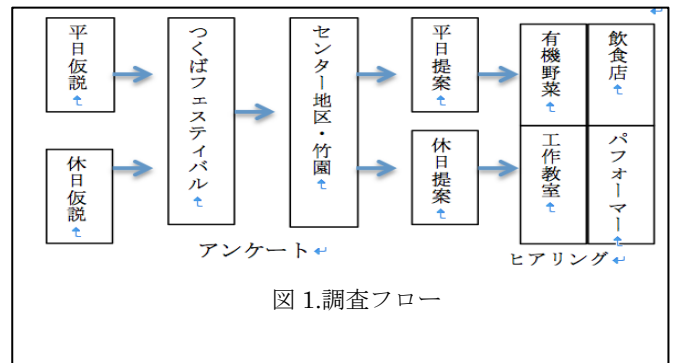


図 1. 調査フロー

4-2. アンケート調査

<p>(i) つくばセンター地区 <u>調査日</u>：5月25日 <u>調査対象</u>：センター地区来街者 <u>調査人数</u>：48人 <u>調査内容</u>：センター地区来場目的 生鮮食品市場について 個人属性 <u>調査目的</u>：生鮮食品市の需要</p>	<p>(ii) 竹園地区 <u>調査日</u>：5月25日 <u>調査人数</u>：20人 <u>調査内容</u>：生鮮食品市場について 個人属性 <u>調査目的</u>：生鮮食品を求める基準</p>
<p>(iii) つくばフェスティバル <u>調査日</u>：5月12日 <u>調査対象</u>：つくばフェス来場者 <u>調査人数</u>：113人 <u>調査内容</u>：つくばフェスについて 市場について 個人属性 <u>調査目的</u>：休日のイベント特性</p>	

4-3. ヒアリング調査

<p>(I) 有機野菜関係者 <u>調査対象</u>：地域イベント参加者 <ul style="list-style-type: none"> ・つくばフェスティバル ・つくいち ・オーガニック・ファーマーズ <u>調査店舗</u>：18店舗 <u>調査内容</u>：イベント参加動機 地域イベント参加意欲 出店可能性 <u>店舗選択基準</u>： <ul style="list-style-type: none"> ・つくばフェスティバル(JA 谷田部) ・つくいち (全店舗) ・オーガニック・ファーマーズ (全店舗) </p>	
<p>(II) 飲食店 <u>調査対象</u>：地域イベント参加者 <ul style="list-style-type: none"> ・食の王座決定戦 ・つくばフェスティバル ・つくいち <u>調査店舗</u>：24店舗 <u>調査内容</u>：イベント参加動機 地域イベント参加意欲 出店可能性 <u>店舗選択基準</u>： <ul style="list-style-type: none"> ・食の王座 (上位店舗) ・つくフェスティバル (エリア別) ・つくいち (全店舗) </p>	
<p>(III) パフォーマンス <u>調査対象</u>：地域イベント参加団体 <ul style="list-style-type: none"> ・学内パフォーマンス団体 ・学外パフォーマンス団体 <u>調査団体</u>：13店舗 <u>調査内容</u>：地域イベント参加意欲 出展可能性 <u>団体選択基準</u>：アクロバティック or 大音量で目立つ団体</p>	
<p>(IV) 工作教室 <u>調査対象</u>：学内サークル団体 <u>調査団体</u>：3店舗 <u>調査内容</u>：地域イベント参加意欲 出展可能性 <u>団体選択基準</u>：子ども向けの工作・実験教室の経験あり</p>	

5. 提案

5-1. 平日の提案

つくば市が行った調査(図2)より、平日センター地区に訪れている人は40代以上の主婦が多い。このことから平日のターゲットを主婦として、主婦向けの生鮮食品市を開催すれば賑わいをもたらすのではという仮説を立てた。実際に平日のセンター地区でアンケート調査を行った結果、図3より平日の主婦は生鮮食品市・飲食店を求めていること、図4より主婦が野菜を選ぶ基準では安全性と新鮮さが高いことがわかった。よってセンター広場で有機野菜を売ることによって安全性、時間帯を決めることで新鮮さの要望を満たし、広場周辺に飲食店を設置することで、賑わいをもたらすことができると考えた。またイベント開催の時間帯であるが、野菜の新鮮さを保つためにも時間帯を絞る必要がある。平

日のアンケート調査を行い、その結果図5になった。この結果とファーマーズヴィレッジが開催されている時間帯を参考にし、イベント開催の時間帯は10時～16時にする。

また平日に出店可能店舗があるのかヒアリング調査を行った。ヒアリング調査を行った結果図6のようになった。図から週1回以上参加可能と答えた店舗が有機野菜と飲食店を合わせて10店舗ある。月2回や月1回と答えた店舗を加えると18店舗となる。これらの出店可能な店舗でシフトを組むことで毎日センター地区に出店することが実現できると考えた。また各曜日に「世界の料理 Day」や「フレンチ Day」といった性格を持たせることでイベントのマナーリ化を防ぎ、魅力のあるイベントとなる。

ここで今回ヒアリング調査したのはつくば市で開催されるイベントに参加経験のある店舗の一部だ。まだヒアリングを済ませていない店舗が有機野菜だと79店舗・飲食店だと51店舗ある。これらの店舗にも調査をすることで、より活気のある空間を作り出すことが可能だ。

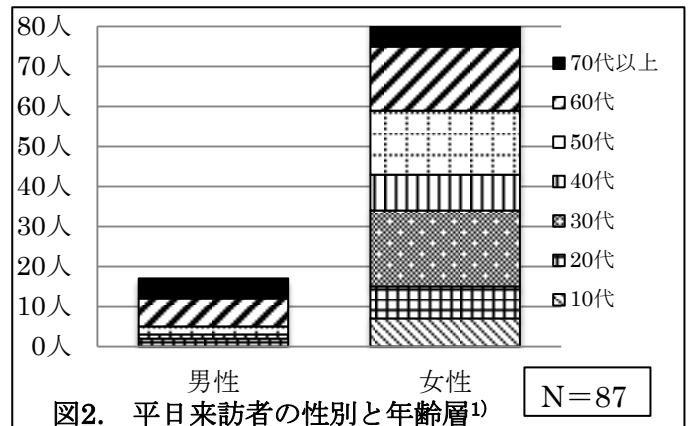


図2. 平日来訪者の性別と年齢層¹⁾

ヒアリング調査(図2対応)

実施日：平成23年11月10日(木)

時間：10時から16時

場所：つくば市中央図書館前、つくばセンター前、クレオスクエア前広場

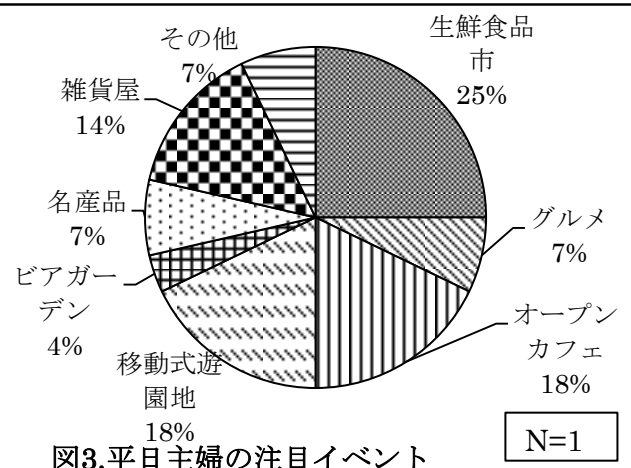


図3. 平日主婦の注目イベント

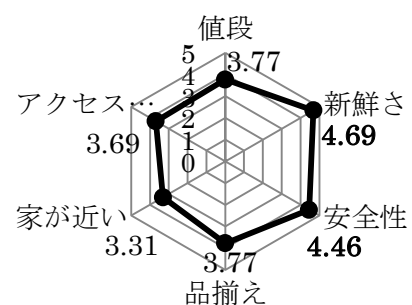
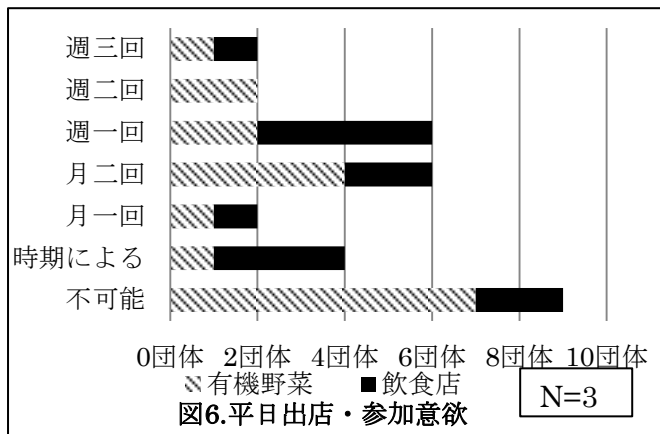
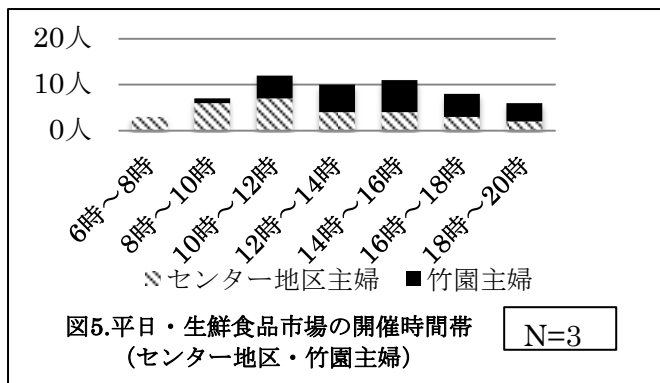


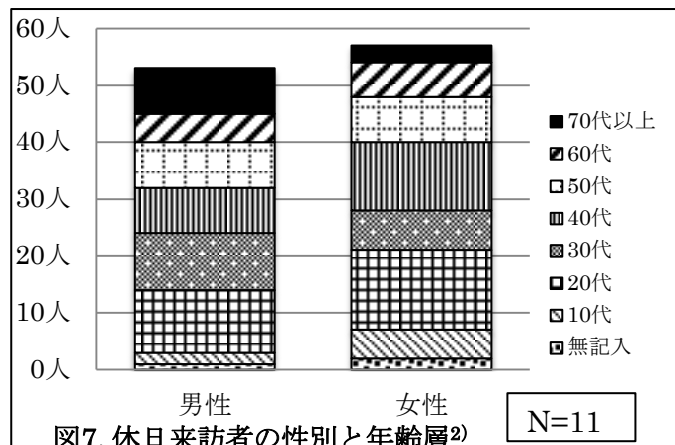
図4. 平日主婦の野菜を選ぶ基準



5-2. 休日の提案

つくば市が行っていた調査(図7)から、休日にセンター地区を訪れている。人には偏りがなく、全世代の人がセンター地区にいる。そこで、イベントの趣旨を固めるためにもターゲットを絞り、なかでも子供連れの家族をターゲットにした。子供連れをターゲットにした理由は、子供向けイベントを行えば子供と一緒に保護者として親も来場し、より幅広い層を呼べると考えたからである。アンケート調査を行った結果図8より、子供を呼ぶためのイベント(子ども向けステージ、夢のお仕事体験、工作教室)と親が時間を潰せるイベント(世界各国の料理、屋台模擬店)に注目していることがわかった。またターゲット以外となる世代の注目したイベント図9を見てみると、一般ステージと飲食店に注目していることがわかった。よって子供向けイベントとともに子供が遊んでいる間、親が時間をつぶせるイベントとして飲食店やパフォーマンスを提案する。

また、休日でも出店可能な店舗や団体があるのかヒアリング調査を行った。ヒアリング調査を行った結果図10のようになった。この図から月1回以上と答えた店舗が有機野菜と飲食店を合わせて29店舗ある。またパフォーマンス団体は10団体ある。これらの出店可能な店舗でシフトを組むこと(表2参照)で毎日センター地区に出店することが実現できると考えた。また各週で「世界の料理Day」や「スイーツDay」といった性格を持たせることでイベントのマンネリ化を防ぎ、魅力のあるイベントとなる。ここで今回ヒアリング調査したのはつくば市で開催されるイベントに参加経験のある店舗の一部だ。まだヒアリングを済ませていない店舗が有機野菜だと79店舗・飲食店だと51店舗・パフォーマンスだと28店舗ある。これらの店舗にも調査をすることで、より活気のある空間を作り出すことが可能だ。



ヒアリング調査(図7対応)
実施日:平成23年10月29日(木)
時間:10時から16時
場所:つくば市中央図書館前,つくばセンター前,
クレオスクエア前広場

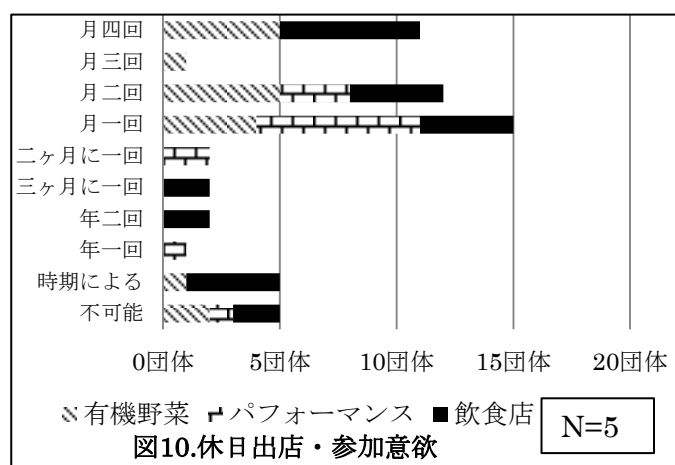
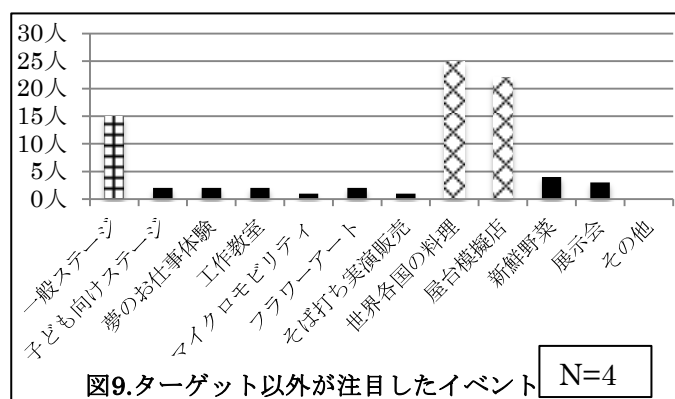
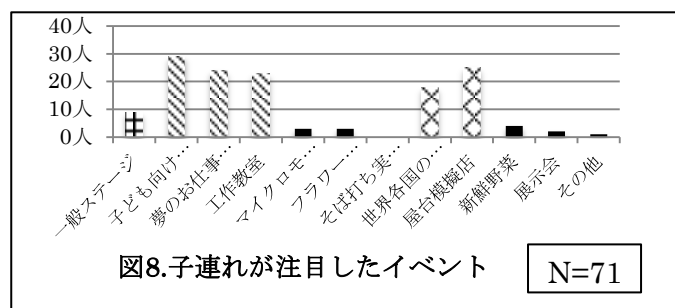


表 2. 休日のシフト例

パフォー マンス	第一土曜	第一日曜	第二土曜	第二日曜	第三土曜	第三日曜	第四土曜	第四日曜
	a	つくいち	c	造園地	c	ストリート サンデー	h	造園地
	b		d	e	f		i	g
	k		e				j	
飲食店	E	E	E	E	E	E	E	E
	F	F	F	F	F	F	F	F
	N	N	N	N	N	N	N	N
	P	P	P	P	P	P	P	P
	T	T	T	T	T	T	T	T
	W	W	W	W	W	W	W	W
	R	M	R	L	R	M	R	L
	I	K	S	V	X	A	C	V
				B				H
野菜	1		1	1	1	1	1	1
	2		2	2	2	2	2	2
	6		6	6	6	6	6	6
	9		9	9	9	9	9	9
	11		11	11	11	11	11	11
	3		3	4	14	4	14	4
	7		19	18	15	19	18	17

表 3. 飲食店ナンバリング一覧

飲食店	
A, オークラホテル	M, 有限会社 おおきや
B, 豚なんこつ	N, いのいち NS店
C, ソバ打ち体験	O, 志ち乃
D, ヨシムラミート	P, たつ吉
E, 割烹一の矢	Q, コート・ダジュール
F, アオイ (かき氷)	R, コーヒーファクトリー
G, 豆のいけのべ (豆のつめ放題)	S, 趙家キムチ
H, つくばsweets	T, もっくんカフェ
I, Merah putih (インドネシア料理)	U, ナチュカフェ
J, タイ料理	V, ダヴィッドパン
K, エスニック料理	W, Hi5 Humberger
L, 鳥吉	X, つくばベーグル

表 4. 有機野菜市場・パフォーマンスタナンバリング一覧

野菜市場	
1.つくばダッシュ村	10.JAつくば谷田部
2.森口農園	11.いちごや
3.浅野農園	12.浅野与五右衛門(無農薬野菜)
4.近江屋商店	13.ごきげんファーム
5.柴田農園	14.じねん堂
6.村松ファーム	15.ベーカーリー・プロトツァイト
7.ジャンティ・ハーブ	16.雑草屋
8.八七技耕夢店	17.つくばブルーベリーピクニック
9.ハコボ×カルティバート	18.八郷半田自然卵
パフォーマンス	
a.筑波音楽協会	g.もしつく
b.ギター・マンドリン部	h.ときめき太鼓塾
c.ジャグリングサークルSHEEP	i.Jazz愛好会
d.筑波大学天文研究会	j.RICOCHET
e.劇団バリリー座	k.ブロックフレーテ同好会
f.合唱団むくどり	l.Realjam

6. 展望と課題

イベント成立には、考慮せねばならない要素があり、まじわり班はイベント開催時の問題点を要素に分け議論した。まじわり班はそれらの問題を以下のように解決した。つくばセンター地区活性化協議会が主催者になって、運営することを想定し、イベントは雨天中止とする。通行問題に関しては、客溜まりによる通行障害や自転車と歩行者の衝突問題などが挙げられるが、その問題解決に、まじわり班はセンター広場の活用を提案する。平成 7 年度都市計画実習生活行動班³⁾では、広場にテーブルと椅子を置くことがセンター地区に賑わいをもたらす結果となっており、この結果を考慮し休憩スペースを広場に設置する。そうすることで人々を広場に誘導し、ペデの客溜まりを解消する。また野菜市・飲食店を開催することで、センター地区の回遊性を創出し、来訪者の滞在時間をより延ばすことに期待。視認性問題において、平日は BGM を流す音、休日はパフォーマンスタ団体の音で、センター広場の視認性の解消につなげる。

まじわり班の最終目的は「毎日がフェスティバル」という提案で、賑わいのない日常をフェスティバルのように非日常化することを目指している。また今後の展望として、イベントの定着化、賑やかな姿を日常光景にしたい。

ただイベントを定着化には出店/出展者を増やさなければいけない。そこで新規層と既存層に分けて対策を考える。

まず、既存の出店/出展者として店の人とパフォーマーを対象に、出店/出展意欲についてヒアリング調査を行った。調査結果により、出展意欲が低い理由として、準備が大変、人手不足、出店料、駐車料等が挙げた。この問題を以下のように解決する。準備を簡易化することを改善することで準備が大変を解消。つまりはテントの常設化（センター広場の占有）をする。そのため以下のつくばセンター広場条例⁴⁾を考慮しなければならない。

<第 3 条 6 項>

物品の販売、陳列その他これらに類する行為

<第 5 条>

広場の施設を占用しようとする者は、規則で定めるところにより、市長の許可を受けなければならない。

次に最低出店日数を応じて出店料を下げるという仕組みを提案する。お店やパフォーマーの最低出店/出展日数を確保でき、シフトを組みやすくなる。また駐車料問題の解決には主催者側が駐車料金を支援することを提案する。そして準備の際、人手不足の解消には、人材派遣制度を提案する。次に、新規の出店/出展者を増やす対策として、イベントのホームページを作成することを考えた。ホームページは外に対する広報の機能を果たすほか、お店やパフォーマーの出店/出展の登録サイトとして機能する。ホームページはつくば市内だけでなく、つくば市外の店や出展者もより参加しやすくなるきっかけではないかと考える。

出店、出展者を増やすことができれば、曜日ごとに特色をつけることもでき、充実したイベントカレンダーの作成が可能になるだろう。つまり、本当の意味の毎日がフェスティバルを実現できるではないかと考えられる。

7. 謝辞

今回の都市計画実習では、多くの方にご協力頂きました。心より感謝申し上げます。稲葉清隆様(つくば市市役所企画部企画課) 小林遼平様(つくば市市役所企画部企画課) つくばフェスティバル出店者の方々 食の王座決定戦出店者の方々 つくいち出店者の方々

オーガニック・ファーマーズ出店者の方々 各種イベントにて調査許可を出していただいたイベント主催者の皆様。また、アンケート調査に協力してくださったつくばフェスティバル来場者・センター地区来街者の皆様にも心より感謝申し上げます。最後に、私達まじわり班を担当してくださった谷口守教授には、多くの的確な指導と助言を賜りました。また、私達が行き詰った際に一緒に打開策を考えてくださった TA の肥後洋平さん、また多くのコメントをしてくださった研究室の方々には、班員一同心より感謝しております。ありがとうございました。

8. 参考文献

- 1) つくば市: 第 2 回つくば市公共空間活用検討委員会会議資料, 2011
- 2) つくば市: 第 3 回つくば市公共空間活用検討委員会会議資料, 2012
- 3) 生活行動班: 平成 7 年度都市計画実習生活行動班最終レポート, 1995
- 4) 「つくばセンター広場条例」
<http://www1.city.tsukuba.ibaraki.jp/hp/reiki_int/reiki_honbun/ae01903801.html> (2012/6/21 アクセス)